

大学の世界展開力強化事業 取組概要 筑波大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

人系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

「現代日本」をテーマに日欧韓の大学間パートナーシップを強化、日欧韓の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成を行う。

【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム(JLCC)

新たにモスクワ市立教育大学とのプログラムを開始。集中講義、学生の派遣・受入を行った。筑波英語模擬国連に参加し、国際交渉の実践を学んだ。ビデオ会議を通じ第1期生の連携大学合同成果報告会が行われた(H25.2)。

2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム(TEACH)

2013年度からのプログラム開始に向けて3大学間協定・事務手続きなどの調整を進めた結果、2013年度よりプログラムを開始するに至った。

3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム(COMPAS-CJS)

ヨーロッパ4提携大学より計5名の学生を受け入れ、筑波大生とともに人文学・社会科学のテーマを広く扱う講義を履修した。また、筑波大生5名をヨーロッパへ派遣し、日欧の国際比較研究を進めた。

(筑波英語模擬国連)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

< 2nd International Forum in Venice, Italy >



【日本文化発信交流プログラム】

カフオスカリ大学での日本文化紹介ワークショップ・日本学共同研究フォーラムの開催(H24.10)、フランシュコンテ大学での日本文化セミナーの開催(H25.3)

【日独韓学術交流プログラム】

TEACH公開セミナーの開催(H24.7, H25.3)

【欧州・東アジア学術ネットワーク推進プログラム】

ヴェネチアフォーラム(H24.10)、京都フォーラム(H25.2)、パリフォーラム(H25.3)

【テレビ会議システムを活用した多国間合同セミナー】

筑波大学・カフオスカリ大学・リュブリャナ大学・ボン大学をつないだ遠隔授業

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1. 日本人学生の派遣

JLCCにおいて、リュブリャナ大学へ2名(H25.3)、モスクワ市立教育大学へ2名(H24.10)の学生を派遣。COMPAS-CJSでは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学へ計5名の学生を派遣した(H24.12-H25.2)。

2. 外国人留学生の受入れ

JLCCにおいて、リュブリャナ大学より4名(H24.7)、モスクワ市立教育大学より2名(H25.1)の学生を受け入れた。COMPAS-CJSでは、リュブリャナ大学、ボン大学、ベルリン自由大学、フランシュコンテ大学より計5名の学生を受け入れた(H24.9-11)。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	11	23	23	23

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1. 派遣する日本人学生へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や、各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートを提供。

2. 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

留学生受入開始に向けて、留学生センター・各教育組織と連携した統一的サポート体制の調整、生活支援・日本語学習支援を行うチューター養成、人文社会科学研究科におけるキャリアパス形成支援教育を提供。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

1. パンフレット作成

全体プログラム概要および各課程プログラムの履修カリキュラムについてのパンフレットを作成し、本事業に加わる各教育組織に配布、学外へも配布し関係機関での周知を図った。

2. ホームページ作成

本事業独自のウェブサイト立ち上げ、全体プログラムおよび各課程プログラムのデザインを決定。パンフレットとあわせ、これまでの取組や実施した交流プログラムを日本語・英語にて公開中(<http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/>)。

3. プログラム普及ビデオの作成

作成したホームページコンテンツの充実を図るため、交流プログラムやセミナーの実施状況を編集した普及ビデオを作成。プログラム内容の紹介だけでなく、プログラム生のインタビューなども盛り込み、本事業ホームページなどで公開中。